

平成22年度 京都府立向陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階・実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域社会から信頼され、期待される魅力ある学校づくりのため、新学習指導要領も踏まえ、特色ある教育課程の編成と推進を図る。 ○ 他人を思いやり、当たり前のことが当たり前にできる、心豊かな人間の育成を目指す。 ○ 体育系、文化系の両方の部活が活性化し、部活と学習の両輪が噛み合い、生徒が充実感を持って高校生活を送れる学校の経営を目指す。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の学力向上を図るため、継続して授業時数の確保や土曜学習、課外の補習、学習合宿などを計画的に行い、生徒の希望進路の実現をめざした。しかし家庭学習時間の減少や学習意欲の低下は歯止めがかからず、生徒ひとり一人に対し、粘り強く可能性を引き出す指導や工夫に取り組む必要がある。 ○ 規律ある生活習慣の確立のため、指導期間を定期的に設定し、遅刻・服装等の指導を行い、自転車乗車マナーについても一定の改善はみられた。家庭や地域、警察他関係機関との一層の連携を図り、指導を続ける必要がある。教職員の意思統一を図り一致した指導を進めたい。 ○ 活発な部活動を背景として、元気な教育活動をめざしてきたが、部活の加入率が低下する傾向にあり、学校そのものを充実させるためにも部活動の活性を一層図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域社会に根ざした学校づくりを進めるため、引き続き社会人講座、高大連携や地域連携の活性化を図る。 ○ 地域から信頼される学校づくりを進めるため全教職員が一致した生徒指導を行い、周囲に見える落ち着いた教育環境づくりを行う。 ○ 類・類型・コースの特色を生かした教育計画や学力の向上、希望進路の実現を図る。 ○ 特色ある学校づくりをめざした新教育課程の編成、現行教育課程への理科科目の移行措置の編成等を行なう。 ○ 残されたⅢ類の活性化のため教育計画の見直しを行なう。 ○ 体育系、文化系部活発信の拠点校としての体制を整え、部活、勉学に励む生徒像を浸透させる。 			
評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	各種会議を効率的・機能的に実施できる体制を築く。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 当面する課題について各分掌等で協議検討する。 (2) 分掌間や教科間で適切に連携を図る。 	A B	B	B	部長会を定例化するなどして、連携した取組が推進されるよう改善を図った。
教育課程	類・類型の特色ある教育課程を編成する。	(3) 新学習指導要領に基づき、類・類型等の特色を生かした新教育課程を早期に編成する。理数の先行実施に伴い、現行教育課程の見直しをおこなう。	B		B	新教育課程について研修会を実施するなどして、特色ある教育活動をどう進めるか研修を深めた。
	総合的な学習の時間を充実する。	(4) 現行の学習内容や指導方法について改善を図り、新教育課程における位置づけを検討・協議する。	B			
学習指導	基礎・基本を徹底し、個に応じた積極的な指導により学力の伸長を図る。	<ul style="list-style-type: none"> (5) 授業規律を維持し、50分間の授業に集中させる。 (6) 基礎・基本を徹底し、学力の向上を図る。 (7) 生徒の特性に応じて指導方法の改善を図り、個に応じた指導を行う。 	B A A	A	B	基礎・基本の徹底を図るとともに、確かな学力を身につけさせるため、小テストや課題提出など生徒の学習状況を点検しながらきめ細かな学習指導を進めた。また、全学年にわたって大学教員による特別授業を実施し、知的好奇心を育む機会とした。
	自学自習の姿勢を確立する。	(8) 課題学習の内容等を改善し、家庭学習時間を充実させる指導を進める。	B	B		
	高大連携等の充実を図る。	(9) 生徒の自発的学習を啓発する取組をおこなう。	B			
		(10) 高大連携や社会人講師による特別授業を継続し、日常の授業に反映する。	B	B		
特別活動	主体的・自立的な生徒の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> (11) 生徒の主体的な活動を育成する方策を検討・協議する。 (12) 部活動の活性化を図るとともに、学習との両立を指導する。 (13) 生徒会活動の充実を図る。 	B B C	B	B	向陽祭（文化祭・体育祭）やスキー研修旅行では、クラスとして有意義な取組ができた。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立を図り、心豊かな人間の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> (14) 挨拶の励行に努めるとともに、欠席・遅刻・早退、身だしなみ等について指導を徹底する。 (15) 問題行動や不適応行動等について、生徒の実態を的確に把握し、未然に防ぐ指導を強めるとともに、迅速な対応と適切な指導を行う。 (16) 交通安全指導を推進する。 	B B A	B	B	年間をとおして、定期的に全教員による登校指導を実施し、生徒の状況把握について共有することができた。問題行動の未然防止に向け、粘り強い指導をさらに進める。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
進路指導	生徒・保護者・地域のニーズに応える進路指導を行う。	(17) 家庭等との連携を深め、進路希望を明確にさせる系統的な指導を進める。 (18) 進路補習や土曜学習、学習合宿等の学力充実対策を改善を図りながら取り組む。 (19) 実力テストや模擬試験への受験を促し、その結果を効果的に活用する。	A A A	A A A	A A A	「なりたい自分」の実現に向け、学年ごとに各種ガイダンスや実力を養成するための進路補習、学習合宿、模擬試験等を教科や関係分掌と連携して実施した。
人権教育	人権教育の推進と充実に努める。	(20) 生徒一人一人の社会的自立を目指すきめ細かな指導を推進する。 (21) 人権尊重の精神と他人を思いやる実践的態度を育成する。 (22) 同和問題をはじめとするさまざまな人権教育を推進する。	A B A	A A A	A A A	学年ごとに、身近な人権問題について考える機会をもち、実践的態度の育成を期した。
環境教育	環境教育の推進と充実に努める。	(23) ゴミの分別・減量化や日常の清掃活動を徹底させ、学習環境を整えるとともに、環境問題に対する意識の高揚を図る。	B	B	B	上級学年ほど美化意識が高く、指導の効果がみられる。
健康・安全	健康・安全教育を推進する。	(24) 特別支援教育を推進するため、機動的な校内組織を整備し、課題解決に一層取り組む。 (25) 生徒の悩みに対して適切に対応できるよう、教育相談活動（カウンセリングなど）を充実する。	B A	B B	B B	特別支援教育に関する研修会を実施した。スクールカウンセラーの協力により教育相談活動を効果的に実施できた。
学校図書館	生徒の読書意欲を高め、図書館の活用を図る。	(26) 教科学習や特別活動などと連携し、魅力ある図書館づくりに努める。 (27) 図書館利用を促す多様な広報活動をおこなう。	B A	A A	A A	年間を通して、多彩な広報活動を通して図書館利用への啓発をおこなった。
研究・研修	学校組織としての教育力の向上を図る。	(28) 課題解決や指導力向上に向けた校内研修を計画的・組織的に実施する。 (29) 分掌や教科等での情報交換を活発にし、指導技術の向上を図る。	B B	B B	B B	児童虐待や特別支援教育等今日的な教育課題について研修会を実施することができた。
危機管理	施設・設備管理を充実する。 文書・情報管理を徹底する。	(30) さまざまな危機に対して適切に対応できる体制を整備する。 (31) 施設設備の安全点検を定期的におこなう。 (32) 個人情報の保護など情報管理を徹底する。	C B B	B B B	B B B	日々の教育活動のなかで、危機を予見し、回避する力を育てることが望まれる。
家庭・地域 社会との連携	開かれた学校づくりを推進し、教育活動を積極的に公開する。	(33) 中高連携や教育活動の公開などを通して、地域との連携を深める。 (34) 保護者説明会・クラス懇談会等を効果的に実施する。 (35) 学校公開、広報紙の発行やメール配信、ホームページの充実に努め、広報活動を拡充する。	B B A	B B B	B B B	ホームページ、メール配信、広報紙・学年だよりの発行、学校公開、各種説明会、クラス懇談会、個人面談などを通して情報発信に努めた。
次年度への改善の方向性	新学習指導要領の実施に向け、生徒一人一人が気持ちよく学習や部活動に励み進路希望を達成できるよう、学習環境の整備と充実に努め、地域から信頼され、府民から選ばれる学校づくりに努める。					